

A 医師の確保については、最優先事項として取り組み、努力しております。

Q 市民から、さんむ医療センターで夜間の救急の受け入れをしてもらえなかったと聞かすが、救急の受け入れ状況はどうか。

A 輪番制により、外科系が2日間受け入れをしています。医師が専門外であるためや、他の患者を診察しているために受け入れられない場合もありますが、市からもその都度確認し、改善に努めるよう伝えております。

***議案第13号について**

Q 児童手当支給事業について、支給金額はどうか。

A 3歳未満は一人当たり月額1万5千円、3歳以上小学校修了前の第1子及び第2子は月額1万円、第3子以降は月額1万5千円、中学生は月額1万円です。

Q 社会体育施設等非構造部材耐震事業の内容はどうか。

A 工事箇所は、蓮沼スポーツプラザ、さんぶの森中央体育館、白幡体育館の3施設です。工事内容は、既存の天井を撤去し、鉄骨の補強、外壁や内装の補修、照明機器の回収を行います。蓮沼スポーツプラザのみ耐震天井の設置等を予定しています。

工事期間は蓮沼スポーツプラザと白幡体育館は年度初め、さんぶの森中央体育館は夏休み後に工事を進める予定です。



文教厚生常任委員会の審査の様子

平成25年10月21日・22日の2日間、総務常任委員会、文教厚生常任委員会、経済建設常任委員会の合同視察研修を行いました。

今回は、山武市が重点的に取り組んでいる「シティセールス」についての戦略を学ぶことを目的に、愛知県常滑市、三重県鈴鹿市に行ってきました。

常任委員会 合同視察研修

10月21日 愛知県常滑市
10月22日 三重県鈴鹿市

常滑市では、中部国際空港に関連した観光振興について学びました。千年の歴史を持つ「常滑焼」、伊勢湾東部の「海」、「中部国際空港」の三つの観光資源を生かした観光振興に取り組んでおり、焼き物のまちとしては、「招き猫のふるさと常滑」をキーワードとし、やきもの散歩道を整備し、景観保全と供に



常滑市での視察研修の様子

そこで、情報発信のための「ネットワークづくり」、市のイメージをつくり出すための「鈴鹿ブランドの創造」を二つの軸としてシティセールスの戦略を平成19年7月から展開しています。ネットワークづくりの特色としては、鈴鹿市出身の有名人を大使として委嘱し、イベントや講演会等の事業に招致し、シティセールスの推進をされています。行政だけではなく、関係機関や民間事業者も含め、様々な主体においてシティセールスを展開することの重要性を学びました。

国際空港に隣接した場所で、日本の生活文化を体験できる魅力あるスポットとしてトランジット旅客への取り組みも行っていきます。

また、人口減少に歯止めをかけるために、企業誘致や住宅地の整備事業にも力を入れていきます。

鈴鹿市では、シティセールス戦略の策定に、若手職員でのワーキンググループを設置し、庁内だけではなく、商工会議所等とも意見交換を重ねて策定に至りました。



研修を終え鈴鹿市役所にて